

## 〔第3号議案〕2011年度活動計画

### 1. はじめに

本年3月11日に起きた東日本大震災は、地震津波による被害とその直後に発生した福島第一原発の放射能漏れ事故により、私たちの生活を一変させる事態に至りました。大地震によって亡くなられた方々、多くの不明者に哀悼の意をささげます。私たちTウォッチの活動も地震による被害からの復興に、有害化学物質による二次被害を無くすという観点で活動を進めていかなければいけないと思います。

そのために新たな二つの活動を提起したいと思います。一つは千葉から青森に至る太平洋側臨海工業地帯の工場の壊滅的な被害による有害化学物質の流出、環境汚染について調査し、二次被害を最小化する取り組みです。

もうひとつは、福島第一原発事故により、放射能汚染と付き合う生活を余儀なくされた人々のために、見えない放射能の恐怖から身を守るための食品や土壌の放射能汚染を測定し、安全に暮らすための一助になる活動に取り組んでいきたいと思います。放射能の測定体制の整備により、放射能測定を収益事業として確立していきます。

今年度の活動を重点課題と一般課題に分け提案いたします。

### 2. 重点課題

- ① 4月5日民主党環境部門化学物質政策ワーキンググループと意見交換を行いました。民主党は化学物質政策プロジェクトチームを立ち上げ、今国会に議員立法として、化学物質政策基本法案を提出するべく活動していくとのことです。Tウォッチとしては、ケミネットの参加団体とともに、市民にとって役立つ化学物質政策基本法が制定されるように、民主党だけでなく、野党も含めた国会議員に対する働きかけを強化していきます。3年前に化学物質政策基本法を求める署名活動の際に呼びかけた2020年目標の達成のための化学物質管理に関する8つの基本原則に基づいた基本法が制定されるよう活動を継続、強化していきます。
- ② 日本におけるPRTR制度は、昨年4月の政省令の改正に伴い、届出対象物質が増加し、政令番号が変更されました。データベース等でどのように対応するのか、方針を検討し、エコケミストリー研究会と対応策をまとめることができました。この数年間にわたり、エコケミストリー研究会のウェブサイトとのリンクがうまくいってなかったので、今後どのように見直していくのか、浦野先生との検討会を継続的に開催し、両者のウェブサイトのリンクを再構築していきます。

昨年度試験的に届出排出量の多い物質について、届出排出量の上位20事業者リストの公表を始めましたが、英語版の完成など、今年度はより一層Tウォッチのウェブサイトの充実をめざし、作業を行っていきます。

- ③ 2008年10月より3年間にわたり三井物産環境基金活動助成については、最終年度としてまとめの活動に取り組みます。5月29日に中国、韓国、タイのNGOを招待し、アジアにおける化学物質管理を考える国際市民セミナーを開催します。また、このセミナーの議論をまとめるとともに、アジアにおいてPRTR制度をどのように構築すればよいのか、3年間の活動の記録集を作成します。日本語だけでなく、英語版も作成し、海外に情報発信していきます。

- ④ 今年度新たな二つの活動を提起したいと思います。一つは千葉から青森に至る太平洋側臨海部の工場の壊滅的な被害による有害化学物質の流出、環境汚染について調査し、二次被害を最小化する取り組みです。

すでに、復興作業の中で有害化学物質による被害を少なくするために、2008年度届出データをもとに、P R T R届出を行った事業所名、住所、有害化学物質名と排出・移動量を取りまとめた表をダウンロードできるようにした「被災地復興参考資料P R T R資料集」を作成し、ウェブサイトで、地図情報とあわせて、公表してきました。被害を受けた工場がどのようなP R T Rデータの届出を行うのかを見守るとともに、有害化学物質による土壌汚染などの実態調査に取り組みます。

もうひとつは、福島第一原発事故により、放射能汚染と付き合う生活を余儀なくされた人々のために、見えない放射能の恐怖から身を守るための食品や土壌の放射能汚染を測定し、安全に暮らすための一助になる活動に取り組んでいきたいと思います。放射能測定器は20年前に中地が立ち上げた「たべものの放射能をはかる会」のNa I検出器と鉛の遮蔽体をTウオッチの事務所に移設し、新たに周波数分析器を購入し、放射能測定体制を整えたいと思います。

また、放射能測定による収益をTウオッチの財源基盤の確立の一環として、収益事業として確立していきます。

### 3. 一般課題

- ⑤ P R T Rデータを市民が有効活用するという方法を普及していく活動には引き続き取り組んでいきます。事業者、地方自治体、市民団体とのリスクコミュニケーションの場である地域セミナーについては、昨年度、大地震で延期になった徳島のほか、数か所の地域で開催していきます。
- ⑥ 4年前から取り組んできた事業者の化学物質に関する自主管理を評価するチェックリストについては、より多くの事業者に使用してもらえるよう研究を継続し、普及する活動に取り組んでいきます。
- ⑦ Tウオッチのウェブサイトの運営、データベースの更新作業に関して、協力者を増やし、迅速に対応できる人材を確保していきます。
- ⑧ 2002年4月の結成以来、来年4月にはTウオッチ結成10周年を迎えますので、記念事業を準備します。

### 4. 財源の確保について

従来から指摘されてきたTウオッチの財源基盤の確立問題ですが、今までZビル4階の共同事務所を4団体で維持してきましたが、諸般の事情により、2団体が事実上経費負担することができなくなり、Tウオッチの負担割合を増加しないと維持できない状況にきています。重点課題にあげた放射能測定活動を収益事業と位置付けて、取り組んでいきます。あわせて、事務局体制の充実に向けた人材確保をめざします。